



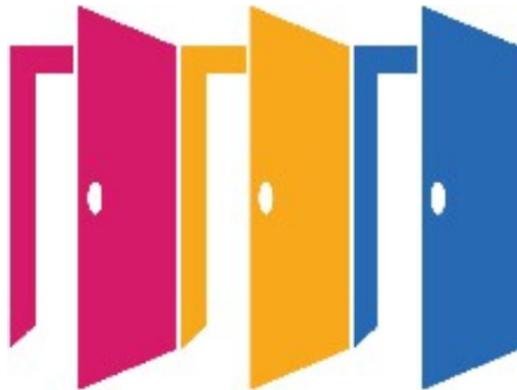
士別ロータリークラブ会報

創立 1960・3・24 RI第 2500 地区

Vol. 08 No. 2720

2020-2021年度国際ロータリーのテーマ

2020-2021年度R I 会長 ホルガー・クナーク



ロータリーは機会の扉を開く

2020-2021年度R I 第2500地区テーマ

2020-2021年度R I 第2500地区ガバナー松田英郎

ランクアップしましょう

2020-2021年度士別ロータリーのスローガン

新しい絆を築き新たな考動を！

- 会 長 / 志村 孝幸
- 副会長 / 菊地 昭通
- 幹 事 / 片庭 隆暁
- 例会場 / 士別グランドホテル
- 例会日 / 毎週月曜日 12:10~13:00
- 事務所 / 士別グランドホテル TEL0165-23-1234

R I ホームページ <https://www.rotary.org/ja>

2500地区ホームページ

<http://rid2500.jp/>

士別RC

<http://www.douhoku.jp/sibeturc/>

第2804回例会 2020年 9月7日(月)

今日のプログラム

・普通例会・理事会

前回(8月31日)の記録・夜間例会

司 会 大野裕一郎 会場監督
 齊 唱 それでこそロータリー
 本日の出席 会員 47人中 出席者 47人 出席率 100%
 本日の欠席

メイクアップ
 ビジター
 ゲスト

ニコニコBOX 山口哲雄 (PG同好会第2回例会優勝)

累計 82,000円

例会予定

■ 9月例会日 [基本的教育と識字率向上月間 ・ロータリーの友月間]

- 9月 7日(月) 普通例会・理事会
- 9月15日(火) 夜間例会・ガバナー公式訪問
- 9月21日(月) 特別休会(法定休日:敬老の日)
- 9月28日(月) 普通例会

■ 10月例会日 [経済と地域社会の発展月間 ・米山月間]

- 10月 5日(月) 普通例会・理事会
- 10月12日(月) 早朝例会
- 10月19日(月) 普通例会
- 10月26日(月) 夜間例会

■会務報告.....志村孝幸 会長

◆ロータリーは30年以上、ポリオを世界から根絶するための活動を続けています。ポリオとは（急性灰白髄炎）で非常に感染性の高い病気であり、特に感染しやすいのは5歳未満の子どもです。日本では一般に「小児まひ」と呼ばれることもあります。

ポリオウイルスは人から人へ感染し、最も多いのは汚染水を通じた感染です。神経系を侵すこともあり、これによって身体のみひを引き起こす可能性があります。治療法はありませんが、安全なワクチンで予防が可能です。

ロータリーとそのパートナー団体は、これまで世界中で25億人以上の子どもにワクチンを投与する活動を行ってきました。

◆米国時間の8月25日に、WHOはアフリカ地域の野生型ポリオウイルス根絶が正式に認定される見込みとなっております。この認定は、アフリカ最後のポリオ常在国であるナイジェリアで、野生型ポリオの症例が最後に記録されてから4年が経過した後に行われるものです。

これは、ロータリー、アフリカ地域、世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）のパートナー団体にとって、また公共保健分野における快挙であり、世界でのポリオ根絶に向けた前進の大きな一歩となるものです。当クラブも年間一人2,000円の寄付をしております。長い道になりませんが、今後とも世界からポリオが無くなることを願っています。

■幹事報告.....片庭隆暁 幹事

9月15日(火) 18:00よりガバナー公式訪問例会を開催致します。集合は17:40です。曜日・時間のお間違えない様お願い致します。

■会員卓話.....小林裕明 会員

私は今年の8月初めに入会させていただきました小林と申します。どうぞよろしくお願い致します。

私は昭和51年に信用金庫に入り43年間勤め平成30年に退職して、今は非常勤の役員として北星信用金庫の末席におります。

従って、信用金庫に関係することしかわかりませんので、今回は現在の信用金庫の原点ともいえる事柄について、少しお話をしたいと思っております。

信用金庫は昭和26年に制定された信用金庫法に基づき、組織が成り立っています。現在、全国で255の金庫があり、北海道では20の信用金庫があります。

信用金庫の大きな特徴は相互扶助の精神を基本として、地域や会員への支援や成長に貢献することにあります。

この考え方の起源をたどると、皆さんご存じの江戸末期に活躍した吉田松陰と二宮尊徳の思想に影響を受けた門下生たちの活躍が大きいとされています。

吉田松陰の門下生であった品川弥二郎は明治になって約10年間ドイツやイギリスで学び、信用組合法の設立に努力された人でした。また、二宮尊徳の門下に岡田良一郎という人がおり、16歳の時に二宮尊徳に学び、尊徳の4大門人の一人に挙げられています。この人が明治25年に静岡県掛川市に日本で初めて信用組合を設立し、初代の組合長に就任しています。二宮尊徳の教えは報徳思想と言われ、経済と道徳の融和を訴え、私利私欲に走るのではなく、社会に貢献すればいずれ自らに還元されるとするものです。

門下生であった岡田組合長が信条としたことは「道徳を根とし、仁義を幹とし、公利を花とし、私利を実とす」として経営にあたったとされています。つまり、「人として守るべきこと、人が定めた法律や規則、規律を根幹とし、地域社会や会員等の利益を優先し、信用金庫の利益は結果とする」というも

ので、のちの掛川信用金庫の基本的な理念として受け継がれており、また信用金庫業界にも大きな影響を与えた考え方でした。

時は進み、昭和46年頃、金融制度調査会で信用金庫を会員組織から株式会社に変える法案の審議がありました。これは当時の大蔵省が信用金庫を合併させて規模の拡大を図り、都銀や地銀と同列に置いて、統制しやすい金融秩序にするという考え方でした。

これを受けて当時の小原鐵五郎全信協会長（城南信用金庫の理事長）は、「そもそも信用金庫が会員組織になっているのは、中小企業金融はいかにあるべきかという確固たるビジョンに基づいている。株式会社という組織形態になれば、営利を自己目的として追求せざるを得なくなる。そうなると中小企業育成、国民生活の安定、地域社会の繁栄という信用金庫本来のビジョンが全面的に否定される。だから、会員組織を株式会社に変えるというのは単に組織形態が変わるという問題ではなく、信用金庫の存在意義そのものにかかわる問題なのである。いったいこの案にはどのようなビジョンが盛り込まれているのか、それを是非聞かせてもらいたい。」と発言したそうです。当時の大蔵省の面々は、だれも答えることができなかったという話です。

続けて、その席で信用金庫が設立に至った経緯と理念を語り、最後に、「あの富士山の美しい姿には、だれも目を奪われ感嘆するが、白い雪に覆われた頂きは、長く裾を開いた稜線があってこそ気高くそびえるものであり、広大な裾野があるからきれいに見えるのである。

日本の企業も、代表的な大企業を富士の頂きとするなら、中小企業はそれを支える裾野である。その裾野に位置する中小企業のための金融機関が信用金庫であり、その果たしている機能・役割・使命は重く大きいものである。」と結んだそうです。

この時の金融制度調査会において、中小企業金融の円滑化を図るため専門機関の存在は必要であり、協同組織の存在を認める結論となりました。また、信用金庫の三つのビジョン（①中小企業の健全な育成発展、②豊かな国民生活の実現、③地域社会繁栄への奉仕）を明確に打ち出し、現在において信用金庫業界の共通の理念として引き継がれており、信用金庫制度の歴史の中で重要なポイントとなっております。

小原鐵五郎氏の「王道は足もとにあり」の著書の中で、「お金を貸し出すときに、借りる人の身になって考え、いま必要なお金をお貸しすれば、その人の事業が成功するはずだと思ったら使っていただくことにしている。もちろんリスクはあります。特に中小企業は人柄で貸せばよい。人間を見て貸す。商売のやり方を見て貸す。これが肝心だと思っています。話をしているうちにそれが分かるようであれば、一人前の金融人とは言えません。私はお金をお貸しするときに、そのお金に先様に行ってしっかり働いてこいという気持ちで送り出します。決して儲けて太ってこいとは言いません。従って、お金が思う存分に働くことができるためには、本当にその人に役に立つように使われることが大切です。」と話をされています。

これらの逸話や考え方は、広く業界の中で「小原哲学」として受け継がれてきております。

こうして、信用金庫制度が形成された歴史の一端を見ると、信用金庫に勤めるものとして、忘れてならないものであり、次の世代に引き継いでいかなければならない大切なものの一つと、改めて感じています。つたない話でしたが、これで終了いたします。本日はありがとうございました。